［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　2008年7月12日

【評価実施概要】

事業所番号	０８７０８００３８０
法人名	株式会社　モデンナ・ケアサービス
事業所名	グループホーム　さわやか荘　龍ヶ崎
所在地	茨城県龍ヶ崎市馴馬町3918－2 （電　話）0297－61－1008

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4－9－3　D101		
訪問調査日	平成20年7月11日	評価確定日	平成20年11月5日

【情報提供票より】（平成　年　月　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16年　8　月　1　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	15　人	常勤　5 人，非常勤　10 人，常勤換算 8．4人

（2）建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての　1 階　～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	48,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		○　無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○　無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1050円			

（4）利用者の概要（　月　日現在）

利用者人数	16 名	男性	12 名	女性	4 名
要介護1	5	名	要介護2	1	名
要介護3	8	名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2	1	名
年齢　平均	77 歳	最低	57 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	つくば双愛病院　・　根本医院　・　とみやま歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角に、落ち着いた建物の入り口には利用者が手入れした季節の草花が植えられ、訪れる家族や地域住民を歓迎している。 毎日の散歩時に地域住民には利用者から声をかけて挨拶をし、ホームに対する理解を深めてもらうよう努めている他、小学生の体験学習の場として提供している。管理者、職員が利用者一人ひとりに対するきめ細かなケアに努めるように日々情報を全職員に周知徹底し『自分がその立場だとすれば？』と考え利用者の思いを把握するように取り組んでいる。 食事は家庭料理であり、利用者の食欲を増進する献立内容、盛り付け等内容は非常に豪華である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価での主な改善点は災害対策の項目で非常用の食料等の備蓄であったが、すぐに備蓄改善に向けた。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価に関しては、全職員で話し合い、意見を聞きながら管理者がまとめた。 各項目毎に意識が持てたので、良かったと職員からの聞きとり時にもうかがえた。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

行政、区長、民生委員、家族会会長、副会長、家族会会員、ホーム管理者の構成により3～4ヶ月に1度開催し、ホームでの利用者の状況、活動状況等を報告し、その席上で出た意見を活かすように職員と話し合いを行い、改善に努めている。 不参加の家族に対しては後日文書にて報告をしている。 次回は外部評価結果を報告予定。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の意見、苦情、不安は意見箱の設置、ホームの苦情受付担当者名を参考用式に明示しいつでも意見等を言える体制をとっている。 面会時に出来るだけ家族の意見を聞くように努めている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

毎日の散歩時に地域住民等と挨拶を交わすように心がけている。自治会には加入していないが地域の行事には寄付をして夏祭り等への参加、ボランテイアとの交流、小学生に体験学習の場とし提供し、グループホームへの理解を得る様に努めている。 年2回の環境美化活動に職員、利用者と共に参加している。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の基本理念以外にホーム独自の3つの理念を職員と共に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に全職員で唱和のほか月2回の職員会議の際、理念の理解を深める勉強会を行い、チームで共有している。 職員は名札の裏に理念を携帯し常に理念を意識しながらケアにあたっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランテイアと定期的に交流や夏祭りの参加によりホームの理解を得るよう努めている。 日々の散歩時に挨拶を交わし当たり前の生活をすることによって地域の理解も深まっている。 小学生の学習の場として提供している。 障害者の方がパンを販売に来たり、小学生が遊びに来ることもある。 今後は小学校の運動会への参加を考えている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施する意義を理解し、そこからでてきた評価を職員全体で受け止め、ケアの質を高める機会だと捉えている。 前回外部評価の災害時の食料等の備蓄にかんする改善点はすぐに、改善した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、区長、民生委員、家族会会長、副会長、会員、ホーム側の構成で3－4ヶ月に1回開催し利用者の状況、行事等を報告し、意見を聞くようにしている。 席上出た意見は職員間で話し合いケアの質の向上に努めている。 不参加の家族に対し、文書にて会議内容を報告している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が主催する会議、勉強会に積極的に参加している。相談時等は出来るだけ行政に出向き直接、指示やアドバイスを受けるようにしている。 生保の関係手続きや行政担当者への連絡を行っている。 どうしてもホームで対応できない利用者に対して行政の力をお借りする時もあり連携をとっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況報告は月1回のお便りで知らせている。健康等の緊急事態時には電話にて報告し内容は(家族連絡対応ノート)に記録に残している。 金銭管理に関しては出納帳、領収書を毎月家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ホームの苦情窓口担当者を明文化し家族が意見等をいいだせるような体制になっているが、面会時に職員が家族に声掛けをし意見等を聞くように努めている。 家族会の開催により意見を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の異動は極力抑えているが、やむを得ず異動の場合は利用者が混乱が起きないように職員で気配りしている。 職員の離職を防ぐため、勤務ローテーションは希望に沿うように配慮している他、管理者は職員の様子に気を配り常に職員とのコミュニケーションをはかることに努めている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織の中に教育研修課を設け、2ヶ月ごとに開催される研修に管理者は参加している。 参加後は研修内容を報告書に残し職員勉強会で報告している。 外部研修にも出勤扱いで参加できるよう勤務体制の配慮を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	決まった交流は行っていないが、管理者、ケアマネージャーは地域の施設に出向き情報交換を行い、ケアの質の向上に取り組んでいる。 昨年度は秋祭りに他のホームに参加を呼びかけ職員、利用者との交流を行った。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族にホームを見学してもらい職員や他の利用者、ホームの雰囲気に馴染めるように、サービス内容を詳しく説明し納得の上、入居してしてもらっている。同系列のホームでのデイサービスを利用し、その後さわやか荘に入居した利用者もいる。 体験入所の受け入れは可能である。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが多く、料理、畑仕事等を職員と利用者は共に楽しみながら行っている。 とろろを大根おろし器でおろし食卓に出したら、「とろろはすり鉢でするのだよ」と教えてもらったり、日々の生活の中で教わることが多い。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話や表情から希望、意向の把握に努めている。 アセスメントや家族の要望から職員同士で検討し、利用者本位のケアを提供している。 アルコール、タバコは家族、利用者の意向に沿って支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族と話し合い、希望や思いが反映できるような介護計画書を全職員と立案している。 ケース記録にはおおよその時間を決めて、ケアプランに沿った支援内容を記入している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に実施期間を明示し、3ヶ月ごとに見直しているのは勿論のこと、日々のケアの中で問題点があれば職員同士、利用者、家族と話し合い、その時にあったケアの提供を検討している。 温度板で1週間ごとにケアプランの見直しを行い、クリアになった項目は赤のボールペンで記入し、モニタリングもきちんと行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望にこたえられるように職員を3人体制とし、通院や外出等状況により時間の制限なくマンツーマンで対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ利用者のかかりつけの病院へ継続して通院できるように支援している。提携病院の利用も可能であり毎月往診してもらい健康診断を受け結果内容を家族に報告している。家族付き添いの受診は報告を受けている。内容は受診記録ファイルにて保管している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、利用者の意向を尊重し、話し合い、同意書を取り交わしている。 医療機関、職員、家族と方針を決め、共有化している。 今後の問題点として誓約書、延命処置を拒否する表明書を準備中である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に職員は利用者の人格を尊重し、会話や声掛けにも注意している。 家族との話し合いの場は事務所、居室にて行う。尚書類の管理には十分注意を払い個人情報の保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には自宅に居たときのままで、利用者の希望、ペースに添えるように支援しているが、すぐに対応できない場合はきちんと説明して利用者に納得してもらい、出来るだけ早く対応するように努めている。 必ず約束は守るようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞いてたてている。 利用者の体調に応じ調理、味付け等を行っている。 男性の利用者が多いので利用者による調理は行っていないが、食後の食器洗い、食器拭きを職員と行っている。 職員1人ではあるが利用者と一緒に会話をし楽しみながらの食事風景が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調をみて希望する時間帯に入浴している。毎日入浴も可能である。 入浴拒否に対しては清拭、一日おきの入浴で対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活暦、アセスメント、日々の様子から、役割が発揮できるように、畑仕事、草花の手入れ、食事の用意、掃除、洗濯たたみ等、楽しみながら出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	勤務体制を3人にして出来るだけ利用者の希望に対応できるようにしている。 買物や散歩で日に一度は外気浴を浴び五感の刺激を受けるようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の窓は利用者の状況や安全面から半開きロックとなっているが、玄関は施錠せず利用者の行動を常に把握するように努めている。 地域と連携し利用者を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を消防署指導の下(夜間想定、消火器の使い方、救命講習を)開催し、警察、消防署の協力を依頼をしている。 地域住民にも協力してもらえるように運営推進会議でお願いをしているが、まずは日々の挨拶による地域住民とのコミュニケーションを大切にしている。	○	昨年の外部評価の結果直ちに非常用の飲料水、乾パンが備蓄されてはいたが、利用者一人当たりの備蓄量が少なく思われるので、本社とも相談の上、必要最低限の備蓄量をお願いしたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態に応じ、栄養バランス、水分量を配慮している。 食事摂取量、水分量はチェック表に記入し利用者の体調管理に努めている。 栄養士、医師の指導の下きちんとした支援をしている。 非常食の備蓄もある。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は利用者が居心地よく過ごせるようソファ、椅子、テーブルが設置されている。 金魚が利用者からよく見えるところで飼育され安らぐ空間となっている。 壁には利用者が製作した季節の飾りつけが施されている。 リビングから畑が見えるようになっており、利用者は収穫を楽しみにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのテーブル、冷蔵庫、テレビ、仏壇、椅子等の設置、壁に家族の写真を飾ったりし利用者にとって安心し居心地よく過ごせる居室となっている。 和室か洋室は利用者の希望で居室選びが可能である。		